



森町蛸谷漁港から望む駒ヶ岳

夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島  
 夕陽渡島  
 夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島夕陽渡島

NO. 127  
 平成27年11月28日  
 夕陽会 渡島支部  
 事務局  
 鹿部町・鹿部中学校



### 後輩達にエールを！

夕陽会渡島支部  
 副支部長 木村 孝

先日、母校教育大学の学生を教育実習生として迎える機会がありました。わずか一週間、実際には間に祝日があったので実質四日間という短い期間のミニ教育実習でしたが、実習生の意欲的で一生懸命に取り組む姿がたくさん見られました。

このミニ実習は「教職員をめざす教育大生が学校業務を体験する」ことをねらいとして行われたものですが、特に複式校での教育指導等を経験して欲しいと考えていました。幸い、期間中に近隣校との集合学習や保護者と一緒に活動するボランティア活動などの小規模複式校らしい行事が予定されていたため、実習生にとっても貴重な経験になったのではと思っています。

最終日の終末授業では、「わたり」「ずらし」など複式学級特有の指導法には多少戸惑いもあったようですが、事前の教材研究もしっかりしており、熱意のある指導で子供たちもしっかりと授業に取り組んでいました。

また、この終末授業には他の学生さんも参観に来ており、初めて見るという複式学級の授業に熱心に見入っていました。

母校の後輩たちが教職をめざして頑張っている姿を垣間見ることができ、大変頼もしく思いました。今回のミニ教育実習では、僅かでも後輩たちの役に立てたかなと思っています。そして、これからも母校の後輩たちにエールを送り続けたいと思います。

「伝統校の誇りを胸に」



北斗支会幹事長  
(上磯中学校)  
後藤 正弘

北斗市は平成十八年に旧上磯町と旧大野町が合併し誕生しました。南を函館湾に面し、東部に大野平野、西部は山岳と農業・水産業、そして商工業のバランスの取れた都市として発展してきました。また来年三月二十六日には新幹線が北斗市にやってきました。谷川小学校、上磯中学校、島川小学校の北を抜けた一番列車は萩野小学校のすぐそばを通り、大野中学校、市渡小学校の東を北上し、新函館北斗駅に到着します。

北斗支会には十五校の小中学校があり、会員一四四名が在籍しています。さらに教育委員会には、元浜分小学校長の大澤照雄先生、今年度退職された前浜分小学校長の細川敬太郎先生も指導主事としていてくださり、心強い限りです。OB会員も一〇〇名ほどおり、それぞれ立場で地域のために活躍されています。また、力を入れてき

た北斗市学力向上等プランも各中学校区で小中連携の取組の成果が見えてきました。

また今年度、上磯小学校が東日本吹奏楽コンクールで金賞、大野中学校が日本管楽合奏コンテスト全国大会で優秀賞、上磯中学校が全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞し「音楽の街」としても北斗市を全国にアピールするとともに、児童生徒の自信につなげています。

さて、上磯中学校は昭和二十二年の開校以来卒業生は一万九千名を超え、現在全校生徒六四一名、教職員数四十四名の大規模校で、開校以来夕陽の大先輩方が校長を歴任し、築き上げてきました。夕陽会員十八名は、三賢徳久校長のリーダーシップのもと、本校の中心的な存在として活動しています。今後も同窓の絆を深め、他の職員や保護者・地域と連携して子どもたちの育成に全力を尽くします。

職員室

「地域の中で深まる絆」



長万部支会幹事長  
(長万部小学校)  
渋谷 智実

渡島半島の最北に位置する長万部町は、道央自動車道長万部ICや国道五号線、国道三十七号線と室蘭本線の分岐点であり、道南の交通拠点の町です。JR長万部駅は新幹線駅となることが決定しました。

また、かにめしで有名な長万部町は、それ以外にも手軽な登山コースを有する写万岳や学術的にも貴重な静狩湿原など、大変自然に恵まれた町です。

ホタテや毛ガニ、そして町の花アヤメをアレンジしたキャラクター「まんべくん」は毛ガニ祭りや町民運動会「ふれあいオリピック」等町内で行われる各種イベントに登場して雰囲気盛り上げています。

教育においては、町内に東京

理科大学の長万部キャンパスがあり、基礎工学部の一年生が小学生に理科実験教室を開催してくれました。アイディアあふれる実験に小学生はわくわく。実験を通して交流も深まります。長万部中学校は、長万部小学校の歌声集会にゲスト出演し、きれいな歌声を聴かせてくれます。静狩小学校と長万部小学校は、交流授業を定期的に行い、一緒に持久走記録会も行いました。

繋がるのは子供たちだけではなくありません。理科大の英語教員は町内の小中学校で学習をサポートしてくれています。「町教育連携会議」では長万部高等学校と町内の小中学校、教育委員会が連携し各校の実践を交流するとともに、共通課題について改善策をすすめております。

さて、今年度の本支会の会員数は教育長 鈴木祐司様をはじめ、長万部中学校五名、長万部小学校十一名、静狩小学校二名、合計十九名です。七月十五日には、夕陽会本部幹事長永井様、渡島副支部長 山崎様の出席を得て本年度の総会、大懇親会を開催いたしました。夕陽から地域のネットワークを広げ、さらに絆を深めてまいります。

支会だより

そして明日へ



福島支会会長  
(福島中学校)  
信田博之

福島町は、ご存じの通り横綱の里として知られています。千代の山・千代の富士の二大横綱をこの地が輩出したと思うと、福島に住む人々のたくましさはわかります。現在も、相撲少年団を核に活動し、今年度も福島中学校が中体連全道優勝し、全国大会団体ベスト十六の快挙を成し遂げました。

また、昭和の大国家事業であつた青函トンネル掘削の北海道の一大基地で有り、多くの町民がこの事業にかかりました。その様子を知ることができ、トンネル記念館です。厳しい環境下での作業、苦労や工夫を臨場感ある映像で皆様には是非一度観賞していただきたいと思ひます。当時の掘削機械や作業の歴史を知ることが、大きな学習教材でもあります。大千軒岳に秘められた歴史の深さを知ることのできる、春と

秋に行われる殿様街道ウォーク。自然を体感しながら先人が歩んだ道を知るこれも福島の魅力のひとつかもしれません。

また、松前神楽や宮歌文書など、歴史を感じさせてくれる懐の深さ。円空仏の素朴な温かさ。いにしえの館崎遺跡の縄文のロマン。綿々とつながる人の営みを感じさせてくれる町でもあります。

その歴史のある福島町夕陽会は、現在三校十八名と役場職員一名の計十九名で構成されています。その数は、大所帯ではありませんが、ここに集う一人一人が、教育への情熱に燃え地域の一員として、日々邁進しております。

母校を共にする先輩後輩の間柄は、また不思議なつながりを感じさせます。先の七月に行われました、町夕陽会総会・懇親会には、本部副会長天野哲征様、支部副幹事長楢山聡様をご来賓として迎え盛大に開催することができました。

同窓の絆を深め、開学の精神を確認し明日からのお互いの前進を心に誓うことができました。

支会だより

二つの海を持つまち八雲



八雲支会会長  
(東野小学校)  
長崎充宏

八雲町は、自然を守り、さらに美しく整え、人々のやすらぎの場になるように、「自然美術館八雲」をキャッチフレーズに街づくりを進めています。八雲町は道南を代表する農業地帯として知られ、冷涼な気候を生かした酪農と稲作(モチ米)や畑作が行われています。また、内浦湾ではホタテ養殖、日本海ではアワビ養殖が行われています。

八雲町は平成十七年に旧八雲町と旧熊石町が合併し、誕生した町です。日本で唯一、太平洋と日本海に面していることから、「二つの海」という意味で、「二海郡」という新たな郡名が付けられた、新八雲町が誕生しました。そして、今年で開町十年を迎えました。開町十年を記念して、開町十年記念式典など二十ほどの事業が行われています。

合併時には八雲町の人口は約二万人でしたが、その後は徐々

に人口が減少し、現在は一万八千人を切っています。急速に少子化が進行し、学校の統廃合の計画が進められています。

町内の学校数は、現在十九校(小学校十一、中学校五、高等学校二、特別支援学校二)です。しかし、熊石高校が今年度、閉校となり、さらに熊石地域では統廃合が進み、平成二十九年には小学校四校(相沼、泊川、雲石、関内)は熊石小学校、中学校二校(熊石第一、熊石第二)は熊石中学校になります。

八雲支会は小学校十一校(落部、東野、野田生、山越、浜松、八雲、山崎、関内、雲石、泊川、相沼)と中学校五校(落部、野田生、八雲、熊石第一、熊石第二)からなり、現職会員は六十三名です。平成二十七年の八雲支会の総会・懇親会は、四月三十日に行われ、本部から平田副幹事長様、支部から高橋支部長様に出席いただき、盛会のうちを終えることができました。八雲支会では会員相互の親睦を図りながら、心豊かでたくましい人づくりに努めてまいります。

# 新会員だより

## 「渡島の子どもたちのために」



渡島教育局  
義務教育指導監  
横山 佳彦

初めての渡島勤務であります  
が、夕陽会の皆様の温かな笑顔  
に励ましを受け、業務を進めて  
おります。

十月までに、管内全ての小・  
中学校を訪問させていただきました  
。全校統一した学習規律や  
教室環境、板書構成やノート指  
導の工夫など、子どもたちの成  
長を願う先生方の頑張りを数多  
くみることができました。

さて、小・中学校では、学  
力・体力向上やいじめの問題へ  
の対応、「特別の教科 道徳」  
の準備、コミュニケーションス  
クールなど、喫緊の課題があり  
ます。  
各学校が、校長先生のリー  
ダーシップの下、組織体とし  
て、これらの課題を解決できる  
よう、義務教育指導監としての  
職責を果たしたいと思いま  
すので、よろしくお願  
いいたします。

## 「半年を終えて」



渡島教育局教育支援課  
義務教育指導班  
深見 亘

本年四月より渡島教育局教育  
支援課義務教育指導班に着任  
いたしました。行政四年目とな  
りますが、夕陽の皆様方に助  
けていただきながら日々の職  
務を進めております。

現在、学力・体力・豊かな心  
を確実に育む教育を求める社  
会的な要請が日々強くなりつ  
つあり、先生方も授業、研修  
会、校務分掌と忙しい日々を  
送っていることと思  
います。

そのような中、学校訪問で授  
業を参観させていただいたり、  
研修会等で先生方とお会いし  
て話すたびに、子どもへの熱  
い思いを感じ、心強い思いで  
一杯になります。

私も渡島の地に来たからには、  
先生方の思いに負けぬよう、研  
鑽と修養に努め、自分を育て  
ていただいたこの地に精一杯  
の恩返しができるよう、渡島  
の子どもたちのために職務に  
励んで参りたいと思  
います。

## 「渡島再会」



ネイパル森  
社会教育主幹  
阿部 隆之

平成二年の卒業以来、二十五  
年ぶりに渡島にたどり着き、  
本年四月から、駒ヶ岳の麓ネ  
イパル森で勤務させていただ  
いております。これまで、釧  
路管内や胆振管内で中学校  
に勤務した後、社会教育行政  
に入り、早来町（現安平町）  
教育委員会派遣、国立大雪  
青少年交流の家、石狩教育局  
、本庁生涯学習課、学校教  
育局参事（生徒指導・学校  
安全）など道内を転々として  
きました。行く先々で同窓の  
諸先輩に励ましを受け、夕陽  
の情のあふるつながりの深  
さを実感してまいります。

ネイパル森に着任後も、多  
くの方に温かい言葉をかけ  
ていただき、初めて勤務する  
管内であるにもかかわらず、  
多くのつながりを生かしな  
がら仕事を進めることができ  
、ありがたい限りです。

今後ともよろしくお願  
いいたします。

### 「長万部町へ」



長万部支会  
(長万部中学校)  
三浦 俊一

函館市内の三つの中学校に十六年勤務させていただき、今年度から長万部町立長万部中学校に赴任しました。大学時代から合わせて二十年程を過ごした函館を離れることとなり、着任当初は慌ただしい毎日でしたが、ようやく環境にも慣れることができました。

毎日の通勤で見る噴火湾の朝日がとても美しく、幸せを感じています。長万部中学校の生徒は明るく素直で、地域の皆さんはあたたかな支えの中で、充実した教育活動に取り組めることがまた、何よりの幸せです。

新しい環境の中で、更に経験を積み重ねながら、自分自身も成長していきたいと考えております。

渡島支部及び長万部支会の皆様には、これからいろいろとお世話になることが多いと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

### 「渡島の発展を祈って」



八雲支会  
(熊石第一中学校)  
蜷 子友正

昭和六十三年に母校を卒業後、日高の類似中をスタートに、函館市の光成中、的場中、鱒川小中、深堀中を経て、四月に着任しました。その間に日高では、班核討議づくりを学び、函館では道徳教育との出会いがある等貴重な経験をさせて頂きました。

遠く離れた知らない土地の日高の地で応援してくださったのが、夕陽の先輩方でした。同窓の絆の重要性を認識した次第です。

今渡島の学校に着任し、渡島の教育に触れ、改めて感慨深く思っております。私自身、七飯町に居住し、長男も次男も渡島の教育にお世話になりながら、成長へと導いて頂いたからです。

私は、将来この国を背負っていくであろう目の前の子どもたちのためと渡島の教育の発展のために、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

### 「半年を終えて」



八雲支会  
(熊石第二中学校)  
瀧澤 佑太

初任の四年間を函館市立戸倉中学校で勤め、本年四月より八雲町立熊石第二中学校に赴任いたしました。

一学期は長いようで短く、怒涛の流れで過ぎ去っていききました。初めての環境、初めて関わる生徒達に囲まれながら、期待と不安が入り交じった状態でのスタートでしたが、多くの先輩方や生徒達、保護者の方々に支えられながら日々研鑽を積み重ねて頂いています。

授業においては、生徒の持つ様々な力、特に「自然現象に興味を持ち、疑問を持つこと、そのことを通して現象について考える力」をいかに伸ばせるかを考えながら授業づくりに励んでいます。私自身の知識や経験の無さ故に生徒が充実感を持つことができない授業づくりへの難しさを感じながらの毎日ですが、様々なことにチャレンジをしながら、自分を高め生徒達へ還元

していききたいと考えています。教員生活の中で日々悩みが付きませんが、一步一步、自分の出来ることを全力で行いながら成長していきたいと思えます。その中で夕陽会の諸先輩方に支えて頂くことが沢山ありますが、感謝しながら教員生活をしていく所存です。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



## 「夢が叶った今」



八雲支会  
倉知 楓  
(野田生中学校)

平成二十七年度に情報科学専攻・基礎情報分野を卒業し、八雲町立野田生中学校に赴任いたしました。中学三年生の冬にはじめて「先生になりたい」と思った私も一つの夢は、母校で教員として働くことでした。運がよかったのか、嬉しいことにその夢が叶い、現在母校であるこの野田生中学校で教員生活を送ることができています。

はじめてのことばかりで上手くいかないことの方が多いですが、生徒や先輩の先生方、地域の方や恩師などほんとに多くの人に支えられ、励まされながら、日々勉強しているところで、忙しさに圧倒されていますが、今は何より生徒と関わる時間が楽しくて仕方ありません。まだまだ未熟な私ですが、自分の生まれ育った地域で教員として働けていることの喜びを感じながら、生徒のために努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 「新たに松前にて」



松前支会  
窪田 佳祐  
(松前中学校)

胆振管内室蘭市で初任四年を勤務させていただき、四月から松前町立松前中学校で勤務しております。胆振でも多くの夕陽の諸先輩に気にかけていただき幸せな初任生活を送らせていただきました。

函館で生まれ、学生時代の多くを過ごした渡島という地で教育に関われる喜びを感じております。

教育環境の大きく異なるなかで、新しい刺激の連続に、日々自身に「変化」を求める生活を送ることができ、充実した日々を送るとともに、良い汗を流せています。

まだまだ未熟な点の多い側面はありますが、これからも子どもたちと向き合い、触れ合い、教師として成長できるように励んで参りたいと思います。渡島の諸先輩のみなさま、宜しくお願いたします。

## 「始まり」



知内支会  
船橋 昂己  
(知内小学校)

本年三月に人間発達専攻教育学分野を卒業し、知内小学校に赴任しました。生まれ育ったこの渡島管内で教員人生を始められることに喜びを感じています。

四月から現在まで、周りの先生方、保護者の方々、地域の方々を支えられ、教えられながら日々勉強しています。また、子どもたちと関わる時間はとても楽しく、改めて、「教員になつて良かった。」と感じるとともに、「子どもたちの笑顔や達成感のためにもっと頑張ろう。」と気持ちを引き締めています。

まだまだ未熟者ではありますが、知内町の子どもたち、そして、渡島の子どもたちの可能性を伸ばしていけるよう、これからも学ぶ姿勢を忘れず、日々精進して参りますので、今後とも指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

## 「私が目指すもの」



知内支会  
滝澤 知優  
(涌元小学校)

今年の四月から、知内町立涌元小学校に赴任しました。生まれ育った渡島管内で教員人生をスタートでき、非常に喜びを感じています。

「先生の夢は？」と子どもたちに聞かれることがあります。半年前まで私は「養護教諭」になることを目指していました。それが現実となり、とにかく無我夢中の毎日、気がつくとも半年が過ぎていました。時間があればふれ合う機会を積極的に作り、丁寧な支援ができるこの環境にとっても感謝しています。このような日々を送られるのも、周りの方に支えていただいているからだと感じています。

これからも向上心を持ち、子どもたちと共に成長していきたいです。私らしさのある保健室経営を目指し、励んでまいります。様々な場面でお世話になることと思います。今後とも指導よろしくお願いいたします。

## 「つながり」



北斗支会  
 (浜分中学校)  
 吉田 円 恵

留萌管内の留萌市で四年間、遠別町で三年間の勤務を経て、今年度より、北斗市立浜分中学校に赴任しました。これまでの七年間は、小学校勤務でしたので、不安な気持ちで今年度をスタートさせました。そのような中で行われた夕陽会の懇親会等に何度か参加させていただきました。知っている方がほとんどいない中でしたが、たくさんの方々に声をかけていただき、夕陽会のつながりと温かさ、教育への情熱を感じ、「がんばろう!」と気合が入りました。

四月から早くも七か月が経ちました。教科や部活動、生徒指導では、先生方の連携が強く、「よりよい学校を作ろう」と魂を込めて教育・指導を行う姿に、日々学ばせていただいています。

皆様には様々な場面でお世話になることと思いますが、ご指導をどうぞお願いいたします。

## 「節目節目で温かさを感じて」



北斗市会  
 (島川小学校)  
 松村 淳

昭和五十六年に後志に新採用で赴任し、右も左もわからず、不安を抱える中、余市のニッカウイスキーの会場で、夕陽会の諸先輩から励まされ、心癒されたことを思い出しました。またその後母校の地函館に戻り、教職二十二年目で今度は日高に。寂しさを感じる中、その時も浦河の地で、夕陽の先輩や同期、後輩に会うことができ、こんなにも仲間がいるのだ。そしていろいろな面で助けていただきました。今回、渡島の夕陽会では、二十年ぶりに小学校時代の恩師にお会いすることができました。恩師との楽しい一時も夕陽があったればこそです。また、たくさんさんの新たな教職員や仲間と教職生活を過ごせる喜びとともに節目節目での夕陽会の縁や温かさを感じながら、精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 「半年が過ぎて」



北斗支会  
 (大野中学校)  
 能登 結 花

平成二十七年に大学を卒業し、北斗市立大野中学校に赴任いたしました。四年間お世話になった渡島管内で、夢であった教員人生をスタートできたことを、大変嬉しく思います。

こちらに赴任して半年が経ちましたが、全てが初めての体験で、日々勉強しています。先輩の先生方や保護者の方々に様々な場面で助けていただき、非常に感謝しているところです。日常の忙しさもありますが、生徒と関わる時間がとても楽しく、改めて環境に恵まれているなど感じております。

まだまだ未熟ではありますが、これから皆様には様々な場面でお世話になることと思います。子どもたちのために精一杯努力していきたいと思っております。ご指導どうぞよろしくお願い致します。

## 「後半戦」



八雲支会  
 (八雲中学校)  
 山本 祐 也

平成二十六年度に環境科学専攻生活環境科学分野を卒業しました。現在は八雲町立八雲中学校に期限付きとして採用され、日々精進しております。

現在は一年団の副担任として所属し、自分も同じ一年目としてこれから成長していきたいと思っております。わからないことがたくさんあったり、教材研究等もまだまだ準備不足な点があったりと悔いの残る日々を過ごしていますが、生徒と関わることを毎日楽しみにしています。

部活動は卓球部の副顧問を務めさせていただいているのですが、自分も卓球をずっと続けていたので、生徒と共に楽しみながら卓球を指導しています。

まだまだ未熟な点しかありませんが、これからも皆様にはお世話になることになると思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

# 終身会員

## の声

### 現在の様子など…



昭和三十六年 一類  
岩尾 雅彦

現在の様子など自由に書いて、ということでしたので思いつくままに筆を走らすことにします。今年七十七歳となりました。年相応に老いが少しずつ、そして確実に進んでいるようですが、毎日体調に合わせて軽く汗をかくようにしています。体を動かす、特に脚を使った運動は脳に刺激を与え、脳の働きを活性化するといういふことから、これからも続けていくつもりです。

この三月、マイカーが車検切れとなったのを機に車の運転を止めました。運転をしていて視力や視野・反射神経・判断力などの衰えを感じはじめていたからです。周囲の人たちの中には、早晚車を買ってまた運転を始める、と揶揄する人もいました。が、じっくり考えて決めたことなのでこれからも運転することはないと思います。

車を止めた今は、JR・市電・函館バス・タクシー・テクシーなどを有効に使って歩き回り、今まで気づかなかった小さな発見を楽しんでいます。

また、心おきなく語り合える友人達との年に数度の会合を楽しみにしています。その中の一つ。学生時代の友三名と年一度泊まりがけで飲み語り合う機会を持っていきます。一年の移ろいを語りあい、互いの体調を気遣いあい、翌年の再会を期して別れるという気楽な会ですが、この会が何時までも続くことを願っています。

### 「ひとり旅」を楽しむ



昭和三十六年 一類  
井上 光雄

退職して十七年、多い年は二か月に一度ほど全国あちこちに出かけている。

退職二年前の春、「退職したら、二人で旅にでも出かけよう」と語り合っていた妻が足掛け八年もの療養の甲斐もなく先に逝ってしまつた。悠々自適のはずの退職後、何をしても楽しめない私が妻と二人のつもりで始めたのが「ひとり旅」であつた。

初めの頃の旅は、一年に一度ほど、行き先を決めただけの行き当たりばったり。ある時は、宿をとるのに四苦八苦といった

無謀なものであつた。

退職後十年ほどは、公職に就いたりして、シルバー人材センターの会員でパートに勤めたりしていたので、旅の計画も立てにくかつた。私の「ひとり旅」が本格的になつたのは、JRの「ジパング倶楽部」の会員になつてからである。行き先は、毎月発行される会誌『ジパング倶楽部』の記事やテレビの旅番組等に触発されて決めたことが多い。よく「童謡ゆかりの地を訪ねる」などとテーマを決めて旅する人もいるが、私の旅は、まったくの物見遊山、何にもこだわらない自由な旅である。

計画は、全てパソコンを使い、インターネットで調べて立てる。現地では、できるだけ自分の足で歩くように心がけている。旅を終えると、行程を思い出しながら、記録にまとめる。

こうして、計画・実行・記録と一回の旅で三度楽しんでいる。





# 金のたまごたち



昭和三十六年 一類  
植村茂樹

初めて勤務した松前町の中学校の卒業生から同窓会の案内が来た。初めての卒業生だったこともあって懐かしく思い出の多い子どもたちであり函館が会場だったので出席した。

卒業は、東京オリンピックの年で、高度成長期の真直中で卒の子どもたちは「金のたまご」とまで言われ大事にされた頃である。進路指導も進学よりも就職が中心である。

そんな折、東京の「全国町村会館」まで十数名の女子を届けることになった。「集団就職」の引率である。

中学を卒業して直ぐ親元や住み慣れた町を離れる寂しさや不安等が入り混じっていたと思うが、函館までの汽車の中ではまるで修学旅行にでも行くかのようにはしゃいでいたが、いざ、連絡船が棧橋を離れる時になったら、デッキに座り込んで声を上げて泣き出してしまった。どうすることもできない。

何とか送り届けて、いよいよ学校に戻る日に「先生もここに

勤めを変えなさい。」と言われた時言葉がなかった。

その他、看護師、警察官、漁師等に進んだ金のたまごたちも皆、立派に還暦を迎えていた。同期会ではその後のことが話題になることはなく「どれが生徒か先生か」といった状態だった。

## 物置を整理しながら



昭和三十六年 一類  
水間福一

退職を機に古い書籍や雑誌等をかなり処分した。七十七歳を過ぎた今、改めて物置の整理を始めた。

まず、欧文タイプライターが出てきた。最初の勤務校時代に分割払いで買ったオリベッティ製でそれなりに高価なものであった。手本を見ながら、人差し指から順にキーを叩く練習をはじめ、間違えずに叩くまでにはかなりの時間がかかったのを覚えていいる。次に、邦文タイプライターが見つる。活字を探しながら文書作成には随分苦労した。更に、今度は画期的なワープロの登場である。キーの配列を欧文式にすると、欧文タイプ

ライターと全く同じのため、原稿作りはかなり楽となった。退職頃になるとパソコンが登場したが、文書作成はワープロの方が便利であった。パソコン操作が自分には複雑すぎて、一度躓いたら回復不可能に陥ったからである。しかし、これも今は故障して使えない。現在、机上にはパソコンはあるが、必要に迫られて使用する程度である。機器を使うのは便利だが、大きな欠点は、漢字等を忘れてしまうことである。

物置の整理には時間がかかる。新しい製品の登場により消える運命にある物が多々ある。リサイクルショップに出すほどの値打ち物もないが、その価値を知っているのは当人だけなのだからと思いつつ古いものを減らそうと努めているこの頃である。

## つれづれなるままに



昭和三十六年 一類  
中山伸朝

早いもので退職後十六年が過ぎました。私が若い頃には七・五・三という言葉がありました

が、これは教員は退職後は七年くらいの生存であり、管理職の場合は五年とか三年位だぞと言う意味だったと思います。

それは思えば今の状態は幸せだなあと思わざるをえません。平均寿命が男性の場合で約八十歳位だそうです。やはり世の中のは住みよくなつてきているということなのでしょうね。でも、贅沢なことかもしれないませんが、長生きゆえの悩みや問題もありません。その一つは、健康寿命ですが、平均寿命との差が結構あります。私の母も九十歳近くまで生きましたが、最後の八年間ほどはほとんど寝たきりでした。

何故こんなことを考えたいのかと言うと、この頃まわりに病人が増えているのが気になるからです。長寿社会と言われるから、病人が多いのもやむをえないことかも知れませんが。それに、私自身も病院通いで幾つかの薬を飲んでますのでね。しかも、ぼんやりしているせいか世の中の変わり様も激しいですね。安楽死法やTPP、マイナンバーという言葉が目につきます。そういえば大学時代が丁度安保の時代で学生運動が盛んな時でした。昔のことを思い出しながらテレビのニュース

を見ております。そして今度は一億総活躍社会だそうです。「一億総・・・」というのは戦時中を思い出すという人もいます。何はともあれ、残りの時間を大切にと考えているこの頃です。

### 出会いに感謝



昭和三十六年 一類  
木村 貴

退職後、南茅部町埋蔵文化調査団に務めた。当時、大船地区発掘現場はこれまでにない大規模な大集落の遺跡であった。

テレビ新聞等で毎日のように報道され、見学者や観光客が押し寄せていた。発掘現場は、多忙であったが、縄文文化の普及活動に向け「北の縄文クラブ」を結成し、土器や生活道具、縄文食等の体験活動を実施できたことは楽しい思い出である。

今振り返ってみると考古学は無知な自分にとって毎日が驚きと感動を与えられるものだった。もう一つは、退職と同時に先輩にすすめられた保護司活動をする事になった。当時私の住む湯川地区は犯罪者が多く最初

から三人、四人と担当することから困惑した。

暴走族の隊長、暴力団、大物サギ師、密漁者、覚醒剤等の対象者が多く一筋縄でいくものでなかった。しかし、彼等に気づいたことは、ほとんどの者が幼・少年期の家庭環境に問題があり、恵まれない生育歴を背負っていることである。彼等とは親身に寄り添い厚生を真剣に考えさせ、研修、ボランティア活動に参加。幸いにしてほとんどが社会に復帰していった。いろんな人達との出会いはかけがえのない貴重なものであった。それぞれの出会いに感謝!!

### 夕陽の偉業の末流



昭和三十六年 一類  
石郷岡 武

戦後七十年の声が喧しい。

戦後の渡島管内小中学校の教育研究は教科・教科外二十数研究会を糾合した、いわゆる「渡島教研」がその舵取りをしてきた。

さて、図書館学の泰斗加賀栄治教授が「学校図書館の《ともしび》を道南の隅々へ」と説か

れてから数十星霜、その教えに共鳴する多くの人たちがそれぞれの立場で実践を重ね、少なからぬ成果をあげてきた。

その母体となったのが「渡島教研」傘下の渡島学校図書館協議会で、昭和三十一年、視聴覚研究会から分離独立し設立された。

平成四年、渡島青少年読書感想文コンクールで、優れた感想文を書いた子どもたちの為にとの思いで《ともしび賞》創設。

平成十一年、嘗て渡島学校図書館協議会に参集した人たちが退職後、渡島の子どもたちの読書力や情報処理能力の向上に幾許かでも役立ちたいという願いで浄財をもちより《ともしび会》を設立。爾来、渡島学校図書館協議会の発展と充実を願い、各種の支援活動を実施してきている。

加賀先生が教える《ともしび》は図書館教育の重要性を説いたものであり、言わば夕陽の偉業の源流である。それは、函館師範学校・学芸大学・教育大学と滔々と今に流れている。

私は、私たちの活動は夕陽の偉業の末流なのだという自負を胸に、生きてある限りこの活動を続けていきたい。

### 終身会員の皆様へ

「平成二十七年 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎二月十三日(土)

懇親会：午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ函館

◎会費 (終身会員) 六千五百円

◎申し込み締め切り 一月十五日(金)

◎申し込み方法

同封の葉書にてお申し込みください。

### あ と が き

新会員・終身会員の皆様の特集号、『夕陽渡島』第百二十七号をお届けいたします。御寄稿いただいた皆様には、大変お忙しい中での原稿執筆に心より感謝申し上げます。

また、今号も会員の皆様に多大なる御協力をいただき、予定通り発行できましたこと心よりお礼申し上げます。